

# 蒲生干潟で見られる野鳥とそれらを支える生態系⑧



図1,2 ハシブトガラス

潮が引いた泥地や水面で採餌するカラスの群れ



二枚貝をくわえている



図3

散乱している牡蠣殻



図4



図5

カラスにモビングされる1羽の猛禽類



図6 トビ



図6 ミサゴ

蒲生干潟でよく見られる猛禽類のトビとミサゴ



図7,8 ヒバリ

カワラヨモギの草むら上空で縄張り主張するヒバリ

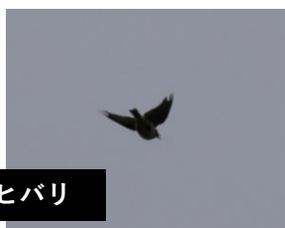


図9 紅藻類

河口の水底の紅藻類



図10 ヒドリガモ

潟湖より河口で多く見られる



図11 ホオジロ

周囲を見渡す



図11 ムクドリ

5~6羽の小集団で採餌していた



図12 ウミネコ

冬のあいだ姿を見なかったウミネコ

調査日 2026年3月17日 (火) 10:00~11:15

今回の調査では干潟一帯でハシブトガラスの姿が多く見られた。潟湖東側の潮が引いて現れた泥地では十羽ほどの群れがいて何かを食べている様子が見られた。群れが離れた後にその場を確認してみると、カキ殻が多数散らばっていた。また、二枚貝や甲殻類の脚と見られるものを咥えている様子も見られ、豊富な餌資源のある干潟を餌場としていることが伺える。また、1羽の猛禽類をハシブトガラスが6羽ほどの群れで餌場を守るためか追い回している(モビング)様子も観察された。蒲生干潟でよく見られるトビやミサゴとは姿が違っており、北へ渡る途中で訪れたハイイロチュウヒのメスかもしれない。

日和山そばのカワラヨモギの草むらでは先月に引き続きヒバリが盛んにさえぎりながら地面をつつき餌を探していた。また、上空でさえぎりながら二羽で縄張り争いをする様子も見られた。七北田川河口の水底で図のような紅藻類が見られた。植物食性の強いヒドリガモはこれらの海藻を食べるために潟湖よりも河口側で多くの個体数が過ごしていると考えられる。(伊藤勝彦)